

敬 語（６年）

●指導目標

敬語のはたらきと種類を知り，適切に使えるようにする。（言語事項）

●教材について

本教材のねらいは，敬語について慣れるとともに理解を深めることにある。しかし，練習教材的な扱いはさけねばならない。敬語の種類についてある程度の理解はできても慣れるまでには至らないからである。

本教材でのキーワードは『必然性』『生活に根ざす』『日常化』である。要約すると，敬語が児童にとって必然性のある言語になるためには，児童の生活場면을教材化するとともに，授業後も敬語に興味・関心をもつこと，いわば生涯敬語人の育成を図らねばならない。

そこで，以下のことに留意して指導を行う。

学習意欲の喚起を図るために，

- 生活場面での言葉遣いを取りあげる。

敬語の学習は児童にとって魅力を欠き，知識として定着させることはおろか，興味・関心をもたせることも難しいという声がある。そこで児童にとって身近な友達に電話をかける時の実際のやりとりを扱うことで，どのような場面でどのような言葉遣いをするかということをも，実感としてとらえられるようにしたい。

生活に活かすようにするために，

- 敬語練習帳をファイリングする。敬語練習帳は，児童が実生活で経験した場面や想定した場面での敬語の使い方を書きためていく。授業の中では，敬語発表会の台本としても使用する。

授業で使った敬語練習帳を授業後も教室内に常備し，自由に書きこみ，自分のファイルに綴ることができるようにする。そのことによって，授業では扱われなかった生活に根ざした場面での敬語の使い方について，理解を深め，日常化が図られるよう工夫する。同時に，個人の財産にするだけでなく友達に紹介することで共有化を図る。

●学習指導計画（全２時間）

展開	時	学習活動	留意点・評価規準及び方法
第 一 次	1	・ 日常の電話のかけ方を劇ふうで紹介し合い，違和感のある言葉遣いを指摘する。 ・ 教材文を読み，敬語の種類を調べてまとめる。	関：敬語を使う場面や使い方に関心をもち，すすんで使おうとしている。（発表・観察） 【留意点】実際の様子を扱うようにする。 言：敬語の働きを考え，どのような敬語をどのようなときに使うか理解している。（発表・ノート）
	2	・ 日常生活で敬語を使う場面を想定し，言葉遣いについて考え，敬語練習帳にまとめる。 ・ グループごとに，劇ふうの発表会を行う。	関：理解した敬語のはたらきをもとに敬語を使う場面や使い方に関心をもち，すすんで敬語練習帳を書こうとしている。（ワークシート） 言：敬語のはたらきを考え，どのような敬語をどのようなときに使うか理解している。（発表） 【留意点】発表会を行うことで，実際の生活に活かせるようにする。

● 本時の展開 (1 / 2)

目標

- ・ 友達に電話をかける場面の正しい言葉遣いを考えることで、敬語の種類とはたらきについてノートにまとめることができる。

●展開例

学習活動	指導上の留意点	評価・支援
1 友達に電話をかける時の言葉遣いをロールプレイングする。 パターン ・(本人が直接電話に出た場合) パターン ・(本人以外の人が出た場合) パターン ・(本人が不在の場合) ・感想を発表する。	・受話器を用意する。 ・ふだん使っている言葉を否定しないようにする。	関：すすんでロールプレイングに参加しようとしている。 (発表・観察) 支：実際の様子を思い出せるよう指導形態をグループにする。
2 教科書の「敬語の種類」を読み、尊敬語と謙譲語、丁寧語の違いについてノートにまとめる。	・教科書のほかに敬語に関する図書を用意しておく。	言：敬語のはたらきを考え、どのような敬語をどのように使うか理解している。(発表・ノート) 支：尊敬語のまとめを全員で行い、まとめ方を理解させる。
3 電話のかけ方についてどのような言葉遣いをすればよいか簡単にまとめる。 ・自分の名前を言う時 ・相手の名前を確かめる時 ・呼んでもらいたい人をお願いする時	・尊敬語，謙譲語，丁寧語についておさえる。	言：敬語のはたらきを考え、どのような敬語をどのように使うか理解している。(発表) 支：教科書の例を参考に考えさせる。

● 子どものノートから

謙譲語

【原則】 自分や身内にかかわることを低めて言う言い方

《例》 先生のお宅にうかがう。

特別な言葉で言う。「まいる」「うかがう」「申し上げる」「拝見する」「いただく」「お—する」「—する」という形を使う。

丁寧語

【原則】 話し相手に対して丁寧に言う言い方。

《例》 友達の家に行きます。

特別な言葉で言う。「—ございます」「文末に「です」「ます」をつける。

尊敬語

【原則】 相手の言動に使う。相手や話題の中の人の動作や気持ちを高めて言う言い方。

《例》 先生がぼくの家に行らっしゃる。

特別な言葉で言う。

「いらっしゃる」「おっしゃる」「くださる」「なさる」「このかた」「あのかた」「どなた」「れる」「られる」をつける。

「お—や」「—」をつける。

「お—になる」「—になる」という形を用いる。

● 敬語練習長の実際

相手	年上の人	場面	初対面の人に尋ねる	相手	兄の友人	場面	電話を受け答え
			ぼく Aさん ぼく Aさん				ぼく
			「あなたの「お名前」を教えてください。」 「私の名前は—です。」 「ありがとうございます。」 「—住所も教えてください。」 「私の住所は—です。」				「はい、佐藤 ¹ です。」 「 ² どなたですか。」 「兄は外出して ³ おりまして、帰りは夕方と ⁴ 申ししております。」
			1「お—」の尊敬語 2「—」の尊敬語				1「です」丁寧語 2「だれ」の尊敬語 3「いる」の謙譲語 4「いう」の謙譲語